

<旭通り商店街：大阪市（旭区）>

# 地域とともに花菖蒲を愛する商店街！

～花菖蒲の香りただよう商店街！～

## 取組みの効果

- ◆ 花菖蒲観賞による来街者数の増加
- ◆ 食品スーパーの出店による来街者の増加
- ◆ 旭あるきMAPへの掲載やウォーキングブームによる商店街の通行量増加

## 取組みの内容

- ◆ 花菖蒲を育成している人の発表の場として商店街を提供
- ◆ 地元の子ども会等と連携し、商店街で打ち水を実施
- ◆ 秋に城北公園の協力を得て菊のミニ庭園を商店街内6カ所に設置

## 取組みの背景

旭通り商店街は、回遊式の花菖蒲園で、250品種の花菖蒲が栽培されていることで有名な大阪市城北公園の近くに位置している。

同商店街も、他の商店街と同様に昔は、夜店や抽選会などを行っていた。しかし、十数年前にある役員「日々の集客につながらずやる意味がない」との一言から、商店街では、その後5年ほどイベントなどに

〈商店街データ〉

- 所在地 大阪市旭区中宮 3-8-21
- 立地 大阪市バス中宮停留所から南約100m  
大阪市営地下鉄谷町線  
「千林大宮」下車 西へ約0.4キロメートル
- 店舗数 34店
- 問合せ 旭通り商店会  
会長 打越勝治  
Tel 06-6952-2202

よる集客を図る努力を何もしない状況になった。

そのため、イベント時の賑わいさえもなくなり、商店街の来街者数は減少の一途をたどり、商店街内にあったスーパーも倒産し、人通りの減少に拍車をかけ、さらに来街者数は減少していった。また、閉店したスーパーも閉鎖されたまま放置され、商店街に寂れた印象を与えている状況であった。



## 取組みのきっかけ

何もしなければこのまま商店街はさら

に寂れていくと考えた会長が、区役所に相談し、商業担当の課長から「商店街に花菖蒲を置いてみればどうか」と提案を受けたのが7年ほど前。常に人とのつながりを大切に、区役所にも頻りに足を運んできた会長の姿勢が取組むきっかけを生んだ瞬間だった。

とにかく何かを始めることが重要と考えていた打越会長は、この提案を受けすぐに城北公園に花菖蒲の設置について相談。

すると、区内で栽培体験をしている人も、「どこかで自分の育てた花を発表したい」という思いを持っていることがわかった。

会長の思いと花菖蒲を育てる人の思いが一つになり、商店街の街灯44基の根元に花しょうぶ各2鉢を並べてみることにした。



## 活性化の要因

- ◆ 花菖蒲を置くことによって、遠方から城北公園を訪れた人たちも商店街の花菖蒲を觀賞するようになり徐々に人通りが多くなっていった。
- ◆ 人通りの増加から近くの空き地にスーパ

ーの出店もあり、人の流れができていった。

- ◆ 旭区発行の旭あるきマップにも掲載され、「花しょうぶ街道コース」の名でウォーキングコースに紹介されるようになった。
- ◆ 打ち水など小学校や地域とのコミュニケーションづくりをすることで商店街に人が集まるようになった。
- ◆ 提案を受けすぐに行動を起こした会長の実行力



## 事業の仕組み

城北公園で花菖蒲を育てている人の発表の場として商店街を提供、また、役員が旭区役所の花菖蒲栽培体験へ参加することにより、花菖蒲を栽培する人とのつながりを広げるとともに鉢数の確保にも努めている。

店主にも花菖蒲を栽培してもらうことで、鉢数の確保を図るとともに、花を大切にする機運の醸成を図っている。また、街全体として花菖蒲を地域の名物となるようPRに努めている。

夏の打ち水では、地元の子ども会に声をかけ実施しており、旭区の区長も参加しているそうである。

子供たちは普段服を濡らすと家でしかられるようだが、この日ばかりは服をビシ

ヨ濡れにしながら楽しんでいるそうである。

このように地域との連携を深めるとともに、子供たちに商店街での楽しい思い出をいっぱい作ってもらえるようにしているとのことである。

## 取組み上の工夫や苦労

花菖蒲の設置に当たって、会員の中には当初、誰が水やり等花菖蒲の世話をするのかといった、設置を疑問視する声もあったそうである。

しかし、今は、花菖蒲を見てお客さんから「きれいですね」とか「かわいらしい花ですね」といっていただけるととてもうれしく取り組んでよかったですと思えるとのこと。

また、商売に忙しくなかなかアイデアを実行に移せないでいた役員たちも少しずつ意識が変わってきたそうである。

一方で、せっかく育った花菖蒲を切ってしまう人がいるので、補充すべき花の確保も大変だという。

当初、商店街を彩るには、100鉢はほしいと考えていたそうであるが、今では、商店会の会員の協力や会長自らも多くの花菖蒲を栽培し、130鉢まで増やすことができたそうである。



## めざす商店街像（今後の展望）

春は花菖蒲で商店街に彩りをもたらすことができるようになった。

秋は、花菖蒲でのつながりもあり、城北公園の協力を得て、たたみ一畳分の菊の三二庭園を商店街6カ所に設置してもらっているため、花街道として認知されるようになって来街者の増加を図りたい。

また、八百屋、鮮魚店、パン屋等の誘致をすすめ生鮮三品が揃う商店街とし、近隣の住民の利便性を図り、地域密着型の商店街としたい。

そして会長には、子どもが喜び集う商店街にしたいという思いがある。昔、学校帰りに駄菓子屋に通っていたように、子どもたちが自然にわいわいと集まる場。車両を通行止めにして道路にチョークで自由に絵を描いてもらうというアイデアは、警察の許可が下りず残念ながら実行に移せなかったが、子どもの笑顔を思い描きながら新しいアイデアを探し続けていきたいとのことである。

## こぼれ話

花菖蒲を置き始めた6~7年前頃、会長の店舗先で、二人の婦人が花菖蒲を観賞していたので声をかけ、花菖蒲や商店街界限のことをいろいろ説明すると、婦人の一人に1千円ほどの買い物をしていただいたそうである。

会長は寝具店を営み、端切れでティッシュケースを作り買い物をしていただいた方にはプレゼントし、買い物をしなく

ても希望者には1個100円で販売している。

買い物をしていただいた婦人は、ティッシュケースが気に入ったのか7個持ち帰られたそうで、実質300円の買い物となったとのことである。

2年程前にある婦人から「私のこと覚えてる」と突然声をかけられ、会長はまったく覚えていなかったもので、どちら様ですかと聞いたそうである。

すると、以前花菖蒲を観賞していて会長から説明を受けたことやティッシュケースの話をされ思い出したそうである。

その婦人は、娘さんが結婚されることになり寝具を購入するため会長の店舗を訪れたとのことであった。

花菖蒲がきっかけとなり、会話がはじまり、人とのつながりを感じる事ができた。花菖蒲で、商店街を飾ることをはじめてよかったと感じた瞬間であったとのことである。



## 取材を通して

商店街の事業をすべて止めてしまったのもある役員さんの一言であり、逆に花菖蒲をみて「きれいですね」といわれた一言で花菖蒲を商店街に置くことに取り組んでよかったと思えたという。

だから「人の言葉は非常に重くやる気にもなるしその逆もある」と言われていた。

だからこそ花菖蒲の観賞で、商店街を訪れた人との会話を大切にしているのだと感じた。

打ち水の中には子供たちがビショ濡れになりながら取り組んでいる姿が浮かぶように楽しそうに話をされたのが印象的で、商店街に子供の声が響き渡るような明るい商店街を会長は目指しているのだと感じた。

今回の取材で同席していただいた旭区商店会連盟会長は打越会長について、「まじめで、城北公園や区役所に何度も訪れている。小学校にも週に2~3回は足を運んでいる。打越会長が花菖蒲を置いたり、打ち水に取り組んだりしていなければ、もっと旭通り商店街は衰退していただろう」と仰っていた。

打越会長は、来街者との会話を大切にするとともに、花で彩られた商店街で、子供たちに一つでも多くの楽しい思い出を作ってもらいたい、そんな強い思いを持っていると感じました。